

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2024年3月21日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

<https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.145

<メタ認知力を高めるための授業>

間もなく春期講習が始まります。新中学3年生の指導では、入試を意識した指導が今までよりも強くなっていくと思います。今回は、得点力アップをはかる授業を考えます。つまり、単元別学習から入試実践演習までを、1年間で訓練していく学年です。単元別の問題だけではなく、高校入試の過去問や他府県の過去問、入試予想問題などと、学年や単元が混在したり、融合したりした総合問題を、9月以降、徐々に指導することになるわけですから、単元別の学習とは違った視点が必要になります。つまり、メタ的な視点を生徒に与えることが重要になります。

例えば、総合問題を指導する時、「まず、〇〇して、次に、△△すると、こうなるだろう。そこで、□□すれば、答えが出るっていうわけさ。どうだ、わかった？質問ある？じゃあ先へいくよ」

こんな感じの授業の流れでは、得点力や成績が上がる可能性は低いのです。

そもそも、単元別の演習から、総合演習に切り替える必要があるのは、なぜなのでしょう？

混合問題や融合問題に慣れていない生徒は、そのような問題を前にすると、まずは「どうやって解くのか?!」と疑問がわきます。そして、全く手につかないか、下手な鉄砲も数撃ちや当る方式で、色々試してみるのですが、時間がかかったり、無駄骨に終わったりするのです。

しかし、出来る生徒は、問題を見た時に、これは、「一次関数の単元だ!」とか「まずは、 $y = ax$ 」と言ったように、考える枠組みが思い浮かぶので、効率的に問題が解けるのです。

そうなのです。単元別の問題では解けたのに、入試のような総合問題の中で出題されると急に解けなくなるのは、考える枠組みを発見できないからなのです。

「先生!この問題教えてください」と質問された時、私はよく以下のようなやり取りを生徒としました。

教師：これは何の教科？

生徒：数学

教師：素晴らしい。国語じゃないよね

生徒：先生。当たり前じゃないですか

教師：なぜ、数学ってわかるんだい

生徒：だって、『x』とか『y』とかあるじゃないですか

教師：それだけなら英語かもしれないだろう

生徒：それなら、『+』とか、『×』とか、『=』とか、あるじゃないですか

教師：なるほどね

生徒：先生、何言っているんですか?変なの!

教師：変じゃないよ。もちろん、数学ってすぐにわかるけど、もし、これを国語の問題だと思っていいたら、絶対解けないだろう

生徒：それは、そうですけど・・・

中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.145-2

教師：次に考えてほしいことは、『どの単元の問題か？』っていうこと。さらに、その単元の中でも、『何を求める問題なのか？』っていうこと。さあ、この問題は、どこの単元の、何を求める問題かな？

生徒：二次関数と一次関数の問題で、交点を求める・・・あっそうか！わかった！先生ありがとう

教師：先生は、何も教えていないけどね・・・

いかがでしょうか。もちろん、その単元そのものがわからない生徒には、再度、丁寧に解法を教えなくてはなりません。単元の学習が凡そ、理解できている生徒であれば、問題の枠組み(属性)を発見する手法を教えることで、自信とモチベーションが上がり、積極的に問題に取り組むので、得点力を上げることができるのです。

総合問題の授業では、解法指導もさることながら、「どこの単元で、何を求めている問題なのか」を発見する力をつけることが大切なのです。このように、問題を見た(読んだ)後で、解法の方略を発見する力を「メタ認知力」と言います。入試実践力の養成では、メタ認知力の養成が大切なのです。

最後に、メタ認知力を高める発問を上げておきます。

〈メタ認知力を高める発問〉

「何の単元(問題)？」

「この単元で大切なことは何だったっけ？」

「何がわかれば、この問題が解けたことになるの？」

「わかっていることは何？」

「何を使ったら解けそう？」

「出題者は、どんな間違いを期待していると思う？」

【編集後記】

お知らせ1

4月スタート！

「塾人プロ養成研修」で若手社員を即戦力に

学習塾は、教室にいる「人」によって大きく左右される業界です。この「塾人プロ養成研修」では、学習塾の最前線で活躍されている現場の先生方を対象に、生徒・保護者の信頼を集めるテクニカルスキル(教務力・対人力・計画力・感応力)を体系的に学んでいただける講座です。全3回の講座(単発受講可能)で、若手社員のレベルアップを図ります。

★詳細とお申込みはこちらから★

<https://management-brain.net/mbaseminar03>

お知らせ2

中土井主催、学習塾のための経営勉強会

「MBA 学習塾経営革新会議」今年も4月に開催決定！

今年度のテーマ

2024年の塾経営を拡大する

～各塾の実践報告から塾経営の本質を探る～

「学習塾経営革新会議」は、MBA代表・中土井鉄信をコンサルタント、アドバイザーとして、講演やグループワークを通じて参加者全員で、考え、議論し、塾経営を見つめ直す勉強会です。思い描く貴塾の将来を実現させるための経営計画づくりをサポートする2日間となっています。

MBA学習塾経営革新会議 4月20日(土)・21日(日)

★詳細とお申込みはこちらから★

<https://management-brain.net/mbaseminar>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.109

公立高校の合格発表を最後に3か月に及んだ受験シーズンも終了しました。お疲れさまでした。今年度の結果はいかがでした？よくも悪くも早々に気持ちを切り替えて、新年度生の募集に全力を注いでいただきたいと思います。

さて、公立高校の入試といえば、かなりの割合で内申点がモノを言う世界ですが、その内申点についてはご存じのように以前から問題が指摘されています。

【東京都】		
国語の「5」の生徒の割合が	31.7%	世田谷区のA中
国語の「5」の生徒の割合が	0.0%	八王子市のB中、 稲城市のC中
国語の「1」の生徒の割合が	19.0%	足立区のD中
国語の「1」の生徒の割合が	0.0%	千代田区のE中 ほか多数

【千葉県】		
国語の「5」の生徒の割合が	39.6%	柏市のA中
国語の「5」の生徒の割合が	6.7%	千葉市のB中
国語の「1」の生徒の割合が	14.8%	八街市のC中
国語の「1」の生徒の割合が	0.0%	八千代市のD中 ほか多数

前者は東京都の教育委員会が2023年3月末に公表した、都内の公立中3年生と義務教育学校9年生の22年12月時点の評定(内申点)の状況です。昨23年春に実施された入試ではこの評定が使われました。

後者は千葉県教育委員会が23年7月に公表した同様の評定です。こちらも昨年春の入試で利用されました。(東京都教委「都内公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年(令和4年12月31日現在)の評定状況の調査結果について」/千葉県教委「令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について」)

東京都と千葉県、いずれも学年生徒数が41人以上の学校が対象ですが、東京都では国語の評点「5」の生徒が

31.7%もいるユルイ学校がある一方、「1」の生徒が19.0%もいるキビシイ学校も。

また千葉県では「5」が実に39.6%もいる学校がある一方、「1」が14.8%もいる学校も。

絶対評価ですから理論的には「5」の生徒100%も「1」の生徒100%もあり得るにしても、少々乱暴すぎるのではないのでしょうか。学校によってこれだけ評定の差があるにもかかわらず、入試に際して東京都も千葉県も一切「補正措置」はとっていないとのこと。生徒たちにしてみればまさしく「学校ガチャ」ですね。

ところで、中学校の先生方はなにを参考にこうした評点を決めているのでしょうか。ベネッセ教育総合研究所が教員を対象にアンケート調査を行っていますので眺めてみましょう(「小中高校の学習指導に関する調査2022」/調査時期22年8月末～9月中旬/以下の回答は公立中学校の教員2,413人対象)

【質問】 22年度行うテストの結果は、生徒の成績(評定)にどれくらい反映されますか(4つの合計が10割になるように整数で回答)。

	中間テスト	期末テスト	単元テスト	左記以外
0割	12.4%	3.0%	32.5%	4.8%
1割	2.0%	0.6%	21.5%	22.5%
2割	12.3%	7.2%	28.6%	36.9%
3割	45.8%	45.0%	12.1%	14.8%
4割	25.4%	33.6%	2.6%	13.3%
5割	1.9%	6.9%	1.3%	4.0%
6割	0.2%	3.7%	1.4%	3.7%

ここでいう「左記以外」は「他のテストや授業の様子、提出物等」のことです。中間テストが3～4割、期末テストが3～4割、単元テストが1～2割、左記以外が1～2割というところが標準ではないのでしょうか。単元テストのない学校の場合は中間4割、期末4割、左記以外が2割とみてよろしいかと思います。ちなみに35.4%

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.109-2

の教員(学校)は単元テストを行っていません。いずれにしてもやはりフツウの先生方は定期テストの結果で判断しているんですね。

では、先生方はそうした定期テストをどのようにして作成しているのでしょうか。同じ調査から引きます。

【質問】あなたが定期試験の問題を作成するときに、次のことはどれくらいあてはまりますか。

	とてもあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
教科書から問題を出す	33.2%	50.8%	13.2%	2.7%
学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す	44.2%	47.7%	6.6%	1.5%
ノートに書かせた内容から問題を出す	23.6%	54.5%	17.8%	4.2%
まったくオリジナルな問題を作成する	13.1%	46.9%	33.3%	6.7%
入試問題に対応した問題を出す	18.4%	58.7%	18.5%	4.4%
記述式の問題を出す	41.2%	50.0%	7.5%	1.2%
基礎的・基本的な知識・技能の習得を測る問題を出す	47.4%	49.2%	3.0%	0.5%
基礎的・基本的な知識・技能の活用を測る問題を出す	38.8%	56.6%	4.2%	0.4%
思考力・判断力・表現力を測る問題を出す	44.1%	52.9%	2.5%	0.5%

これだけだと問題作成の意図や出どころがよく分かりませんので、「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」を足した割合が高い順に並べてみることにしましょう。

「思考力・判断力・表現力を測る問題を出す97.0%」→「基礎的・基本的な知識・技能の習得を測る問題を出す96.6%」→「基礎的・基本的な知識・技能の活用を測る問題を出す95.4%」→「学校で使っている問題集・副教材から出す91.9%」→「記述式の問題を出す91.2%」→「教科書から問題を出す84.0%」となっています。

ただし、正直に申し上げますと、私には「思考力・判断力・表現力を測る問題」の意味がよく分かりませんので、ここではとりあえず「単純な暗記問題や計算問題ではない」くらいに解釈しておくことにします。

すると、定期テストの問題は、「基礎・基本的な内容」を中心に、主に「学校で使っている問題集・副教材など」や「教科書」から出題されること、さらに「記述式」も少なからず出題されていることがわかります。

とすると、普通の塾が普通に行っている「定期試験対策指導」はおそらく間違っていないですね。

ならば、生徒さんたちの成績をこれまでより上げるためにはどうすればよいか。

これまでよりもっと時間を取ってもっと習熟度を上げること、これ以外に方法はないでしょう。当たり前のことです。

普通の塾の子どもたちの9割は高校への進学に繋がる学校の評定を上げるために塾に来ています。定期テストの成績がそれに直結するならば、とにもかくにも当たり前のことを当たり前にやっていきましょう。

平凡かもしれませんが、それが地域から信頼される塾への唯一の道ではないでしょうか。

PS・コンサルティング・システム
小林 弘典